

F P まつもと通信

ちょっと得する「お金」や「資産形成」の話題をお届けします。

ご挨拶

3年ぶりのマスク無しの夏休み、いかがお過ごしですか？海外からの観光客も増え、随分とにぎやかになってきましたね。

世界旅行ツーリズム協議会の発表によると旅行・観光部門の日本のGDPへの寄与は、約37兆円とコロナ前の2019年の約40兆円とほぼ並ぶ水準まで回復したそうです。

移動や人との接触が不自由だった分「リベンジ旅行」につながっているようです。

この流れが景気、所得増、につながっていくとよいですね。



今月号のちょっと気になるお金のコラム

私立自宅外通学の学生が使えるお金は1日わずか710円！！アルバイトや奨学金を上手に利用することも大切ですがやはり時間をかけた準備がポイントではないでしょうか？

日本の高校生は出世よりのんびり

国立青少年教育振興機構は6月に「高校生の進路と職業意識に関する調査報告書-日本・米国・中国・韓国の比較」を公表しました。

進路に関する意識、キャリアに関する活動・学習、職業に関する意識、自分自身や将来に関する意識、などの調査項目があります。

下表は仕事感について比較各国と比べ特徴的な項目をピックアップしたものです。

	日本	米国	中国	韓国
暮らしていける収入があればのんびりと暮らしていきたい	49.4%	42.3%	29.4%	35.9%
やりたいことにいくら困難があっても挑戦してみたい	22.5%	46.3%	38.2%	28.4%
できるだけ高い地位に就きたい	13.1%	30.5%	31.7%	27.6%
自分の会社や店を作りたい	8.5%	25.6%	23.2%	26.6%

「暮らしていける収入があればのんびりと暮らしていきたい」については2012年の32.8%から増加しています。

出世をしても責任や仕事量が増える一方報酬がそれに見合っていない、と考える人が増えているといわれています。給料が増えないなか税金や社会保険料負担が増えていることも影響しているのかもしれない。

労働観が変わることが悪いわけではありませんが仕事にも夢を持てる社会になることを期待したいですね。



F P 松本相談センター
ファイナンシャルアドバイザー
媚山裕之

〒390-1702
長野県松本市梓川梓856-26
0263-76-1250
090-8741-7358
<https://fp-matsumoto.com>



2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。

国も勧める、“確定拠出年金”や“つみたてNISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすく、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

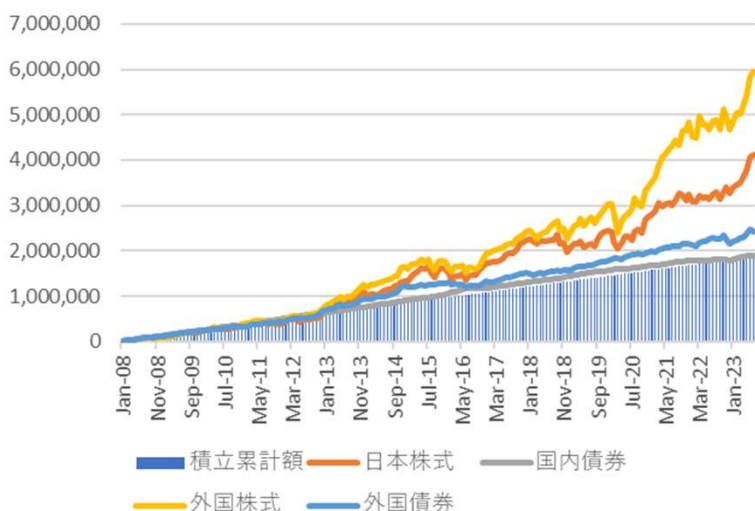
下図表は2008年1月から積立投資をした場合のシミュレーションです（MS社インデックスファンド基準価額データを利用）。図①は国内外の株式・債券の種類ごとの積立投資の推移を表しています。図②は外国株式ファンドと外国債券ファンドに積立投資をした場合の積立開始時期による成果の違いを表しています。この2つのグラフを見ると、確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切であることがわかります。

投資期間に応じた資産配分：積立期間が長い場合には株式の割合を多く、まとまった資金の受取予定が近い場合には株式の割合を少なくする

大幅に値下がりした場合：積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する

長期継続する：値動きや値動きを解説するニュースに惑わされず長期継続する

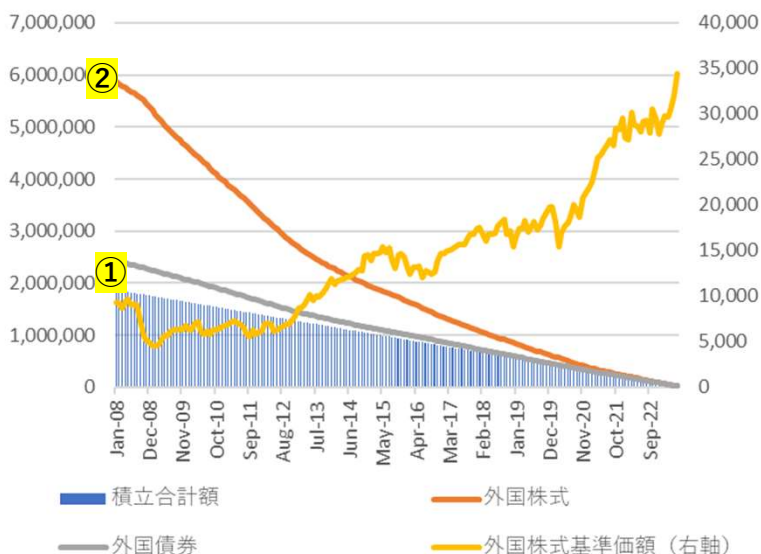
① アセットクラスごとの積立投資の推移



	May-23	Jun-23	Jul-23
積立累計額	1,850,000	1,860,000	1,870,000
日本株式	3,761,872	4,054,466	4,123,573
国内債券	1,881,271	1,895,388	1,875,428
外国株式	5,421,599	5,855,268	5,952,021
外国債券	2,366,853	2,470,083	2,425,807

2008年1月からの積立投資の推移です。株式は値動きは大きい一方値上がりも期待できます。債券は値動きは小さく値上がりも小さいことがわかります。従って長期の積立では株式をメインに、まとめて取崩す予定がある場合は株式の割合を少なくします。

② 積立開始時期ごとの積立合計と評価額



2008年1月に始めた積立投資の合計額①187万円（青棒）は2023年7月に②586万円（オレンジ線）3.13倍になりました。グラフの左の方は積立合計（青棒）に対して現在の評価額（オレンジ線）が大きく上の方に離れているのに対しグラフの右の方はその差が小さくなっています。つまり投資の成果は概ね積立期間に連動していると考えられます。

外国株式に10年（120万円）積立をした場合の最大値、最小値、平均値は下表のようになりました。

最大	2,640,931	2012年1月 ~ 2021年12月
最小	1,747,373	2010年4月 ~ 2020年3月
平均	2,274,688	データ数：68

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

NYダウ平均株価13連騰

	日経平均		NYダウ		ドル円
May-23	30,887.88	7.04%	32,908.27	-3.49%	139.34
Jun-23	33,189.04	7.45%	34,407.60	4.56%	144.27
Jul-23	33,172.22	-0.05%	35,559.53	3.35%	142.32

7月のNY株式市場は、金利の引き上げが終わりに近づきつつあるとの見通しや景気的大幅な落ち込みは回避できるのでは、との期待から10日から26日まで36年ぶりの13連騰となりました。

7月末の終値でも35559.53ドルと史上最高値の96%の水準まで回復しました。

ただし、中国経済が不動産を中心に失速していること、半導体セクターの業績の落ち込み、米国での医療用クレジットの負債拡大、米国地銀の経営不安など懸念材料も多くあります。

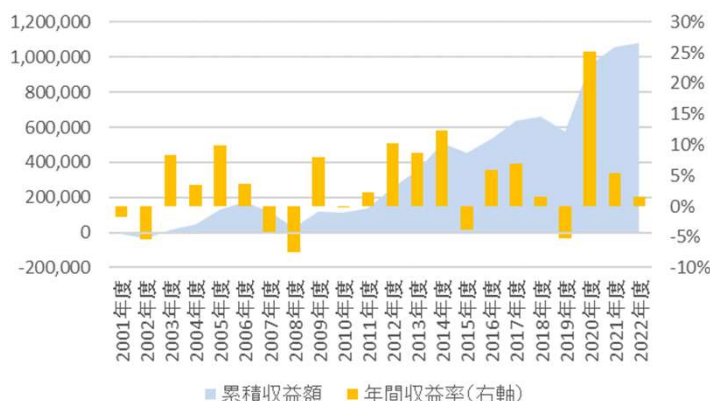
信用不安につながるような出来事があると株価は大きく調整することもあります。長期の積立投資では値動きに惑わされずに継続することが大切です。

公的年金の運用状況を確認しよう

先月、年金積立金管理運用独立行政法人（以下GPIF）は私たちの年金積立金の運用状況報告にあたる「2022年度 業務概況書」を先月発表しました。

2022年度の収益率は、+1.50%、収益額は+2兆9536億円、運用資産額は200兆1328億円になりました。第一四半期から第三四半期まではインフレの進行とそれに伴う金利上昇によりマイナスでしたが第四四半期にはいるとFRBの利上げめどが意識され始めマーケットは堅調な動きになりました。

	第一四半期	第二四半期	第三四半期	第四四半期	年度
収益率	-1.91%	-0.88%	-0.97%	5.41%	1.50%
収益額	-37,501	-17,220	-18,530	102,788	29,536

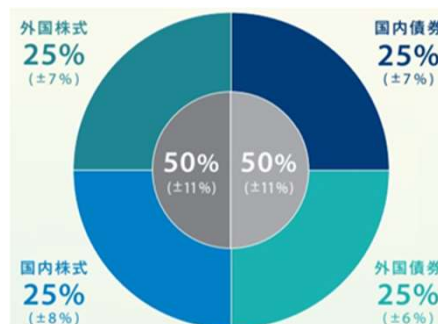


上図は2001年の市場運用開始以降の累積収益額（青）と年度ごとの収益率（オレンジ）を表しています。

単年度で見るとプラスだったりマイナスだったりしますが期間を延ばして長期的な目線でみると収益が積みあがっているのがわかります。私たちの積立投資と同じ考え方ですね。

年金積立金の、目標運用利回りは、「賃金上昇率+1.7%」を上回ることです。2001年以降の実績は3.59%なので堅調に運用ができていると考えてよいのでしょうか？

GPIFではこの目標をなるべく小さな値動きで達成するために下記の配分を基本ポートフォリオと定めています。



短期的な値動きに惑わされずに基本方針を維持して継続することの大切さがここでもわかりますね。

GPIFのホームページには年金積立金の運用実績や運用についての考え方などが詳しく書かれています。興味がある方は一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。

ちょっと気になるお金のコラム

大学受験は夏休みが重要、と言われてますね。受験を控えているお子さんは目標に向けて頑張っていることと思います。

一方親はそろそろお金のことも考えておく必要がありますね。

今月は大学進学にかかわるお金についてみましょう。学校への納付金は各校のHPなどで公表されているのでここでは仕送りや住まいなどについて「私立大学新入生の家計負担調査」（東京私大教連）の調査結果を紹介します。

間近に進学を控えているお子さまがいるご家庭はもちろん、小さなお子さまがいるご家庭も準備の目安にしてください。

私立自宅外通学の場合、入学の年（翌年3月まで）にかかる費用は408万円

下表は受験から翌年3月までにかかる費用です。

	自宅外通学	自宅通学
受験費用	265,300	255,200
敷金・礼金	246,700	
生活用品	319,000	
家賃	807,600	
仕送り	1,091,200	
	2,729,800	255,200

家賃：67,300円×12か月

仕送り：4月・5月：102,600円

6月～翌年3月：88,600円

4月、5月は入学直後で出費がかさむので多めの仕送りになっています。

ここに初年度納付金（国立：817,800円、私立平均：1,357,080円）を加えた金額が入学の年にかかる費用となります。私立自宅外だと約408万円になります。

1日に使えるお金、わずか710円

仕送りから家賃を除くと残りは21,300円、1日当たり710円になります。

月の仕送り額が最高だったのは1994年で今より4割ほど多い124,900円でした。20年前と比べて仕送り額が減っているのは日本人全体の給与が伸び悩んでいることも原因かもしれませんね。

	1994年	2022年
仕送り／月	124,900	88,600
家賃／月	57,200	67,300
初年度納付金（私立）*	989,739	1,357,080
初年度納付金（国立）*	693,600	817,800

（*文部科学省 国公立大学の授業料等の推移より）

昨年以降いろいろなものの値段が上がっています。親にとっても学生にとってもより厳しくなっているのではないのでしょうか？

教育費は必要な金額と必要になる時期が概ねわかっています。小さいお子さまがいるご家庭では時間をかけて少しずつでも準備しておくことが大切です。

